

三重県四日市港で採集されたキツネノマゴ科ハグロソウ属の外来種 *Peristrophe paniculata*

会長 勝山輝男

不定期に県博に行き、未同定標本の整理をしている。今回は神奈川県植物誌調査会の故松本雅人さんが三重県四日市港で採集されたキツネノマゴ科の不明植物を取り上げる。

以下に標本の形態を記す。茎は 4~6 稜があり、粗い毛がある。葉は対生し、長さ 1-2 cm の柄があり、葉身は卵形~披針形、長さ 4-10 cm、幅 1-3 cm、全縁で両面に粗い毛が生える。茎頂や上部の葉腋に疎らな円錐花序を出し、枝先に頭状の分花序(頭花)をつける。頭花は基部に線状披針形で萼状の総苞が 5 個あり、その中に 1~2 花を含む。最外の総苞片は長さ 8-12 mm、内側の総苞片は長さ 5-8 mm、全体に粗毛がある。萼は 5 深裂し、裂片は膜質芒状で長さ 3-4 mm、花冠は紅紫色で先は 2 裂、筒部は長さ 3-5 mm、裂片は長さ 4-5 mm、外面には細毛がある。雄しべは 2 個、花冠筒部より突き出て葯は 2 室。さく果は長さ 10-12 mm、細毛があり、熟して主軸と果皮は離れず、上から下へ裂開して 4 種子を出す。種子は円盤状で径約 2 mm、黒褐色で微細な突起がある。

花冠が 2 唇形なので、日本産のものではハグロソウ属(*Peristrophe*)やヤンバルハグロソウ属(*Dicliptera*)に似ている。そこで、手元の海外フロラでその近辺を調べると、*Flora of Taiwan* にシタイショウ *Hypoestes cumingiana* の図が載っており、よく似ていた。しかし、シタイショウは茎に稜がなく、茎や葉は無毛で、花冠や萼などのサイズも微妙に異なった。

Flora of China のキツネノマゴ科の検索表では *Hypoestes* 属の葯は 1 室、四日市港の植物は葯が 2 室なので、ハグロソウ属またはヤンバルハグロソウ属と考えられた。ヤンバルハグロソウ属の果実は背面の主軸が肥厚して、熟すと主軸と果皮が離れ、その弾力で種子が弾き飛ばされる(山崎, 1970)。四日市港の植物は果実の上から下へ単純に裂開するのでハグロソウ属となる。*Flora of China* の属から種への

検索表から、問題の植物は中国南部~インド、中東、アフリカに分布する *P. paniculata* と判明した。和名はない。

Peristrophe paniculata (Forsk.) Brummitt

標本: 三重県四日市市四日市港 2004 年 9 月 12 日 松本雅人(KPM-NA0222207).

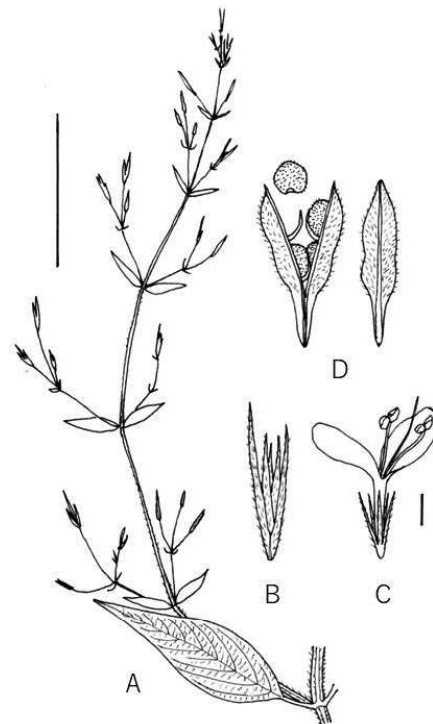
文献

Deng Yunfei, Jia-qi Hu, Thomas F. Daniel, John Wood & John R. I. Wood, 2011. *Acanthaceae in Flora of China* Vol.19, pp369-477.

Hsieh Chang-Fu and Huang Tseng-Chieng, 1998. *Acanthaceae in National Science Council of Republic of China ed. Flora of Taiwan*, 2 ed. pp.648-687.

山崎敬, 1970. ハグロソウとその近縁種の所属について. *植物研究雑誌* 45: 127-128.

図

*Peristrophe paniculata*

A: 花序枝 B: 総苞 C: 萼と花冠 D: 果実(左は裂開した果実と種子) Aのスケールは 5 cm、B~Dは 2 mm.